



## 2020年、移り変わるお葬式事情 with コロナ

会社帰りの帰宅ルートで、毎晩3件の葬儀屋さんの前を通っています。なんだかこの一年、まるでお通夜も行われていることは極端に少なく、いったいどうなっているのだろうかとお葬式事情が気になっていました。コロナの中でも死亡者数は昨年よりも9300人減(0.7%減)、100歳以上の高齢者も8万450人とどんどん死亡年齢は上がっていったからなのでしょう。

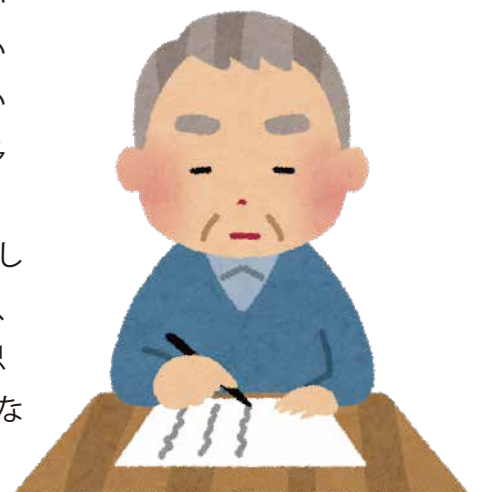
15年ほど前には、『これからの日本の成長産業は団塊の世代が死亡する葬儀屋業界しかない!』などと言われていたことから、次々と葬儀屋に参入する企業も増えてきました。一方で、寿命は長くなるわ、それに伴ってお友達が少なくなるわで、日本人の葬儀は件数こそ増えはしましたが、極端に小さな家族葬でライトな価格へと方向へ移行しています。もともとは人が急に死ぬわけで、病院からの紹介で葬儀屋があてがわれ、慌てるわ悲しいやら初めての事やらで、出合い頭の葬儀屋さんに任すしかない的な所が多かったものです。そこに付け入るように思いのほかの高額請求…。おいおい、多すぎる祭壇の花の行く末はどこへやら…?と疑問に思う暇もなく斎場へと向かい、大忙しで…。

こうしたことが社会問題化した葬儀事情に対して、明朗会計・ライトな葬儀のコース選択ができるようになってきました。全国平均の葬儀費用は121万円(お坊さま関係への費用は別)と言われていたのですが『小さなお葬式』『よりそうお葬式』等ネットで全国の家族葬屋を集団化させて、適切な価格(50万円以下)とサービスを一律的に提供する動きが急場のぼったくりを阻止してくれています。特にコロナ患者の場合は、家族もお別れもできずに斎場へ直行して翌日にお骨を家族が受け取るだけ、という超簡略型の葬儀まで生み出される始末です。あまりにもあっけないパターンですが、人が集まらないこのご時世では仕方ありません。コロナ終息後も、『まあこんなもんでええか…』という超ライトな風潮が広がるのかもしれない。

しかし、葬儀自体はライトにできても、お坊様への『お布施』は別物です。檀家寺が決まっている場合には、地方により、宗派により、はたまたお寺の『格』によって違っているなど…。広域の大手葬儀屋さんの場合は、あそこの寺はいくら要求すると結構わかって知らせてくれますが、通夜・葬儀・納骨の3回は来てもらうことになって、だいたい50万円以上は出さないとお坊さまのご機嫌が損なわれるという話もあります。さらには戒名を付けてもらうと100万円~300万円位は取られるようで、『小さくできないお葬式』にどうしてもなってゆきそうな気配です。

特に残された家族にとっては、親をないがしろにしたと言われたくないために、自分の懐具合と相談はしつつも、大き目の金額へとつつい向いてしまうもの。こうした事情を思い測って、ご本人が生前にどうしなさいと書き残したり、そのためのお金を別途用意して置いたりとすることが多くなってきていることは良きことです。

私の父が亡くなって13年、この間にお葬式事情は大きく変化してきました。が、母も90歳となり、すでに意思を明確にできる状況にはないので、あ〜あ…どうしようか…と悩ましいことになってきております。そう思うと現在63歳の私ですが、ぼちぼち『エンディングシート』を書き始めなければならないのかという暗あ〜い気分です…。皆さん、意識がはっきりしている間に書き残すことをお勧めいたします。



# 「美と命ならどちらを選びますか？」

コロナの感染拡大によるマスク生活の影響で、女性が化粧品を購入する頻度が減り、不況知らずと言われていた化粧品業界も売上が大幅に減少しています。特に、口紅は前年比44%、ファンデーションも68%まで落ち込みました(2020年12月14日付日本経済新聞)。

そんな化粧品業界で2か月待ちとなっているファンデーションが、「天然針水光注射ファンデーション(V3ファンデーション)」。学歴に加えて顔面偏差値が社会的地位を決める美容大国韓国発の、天然の海綿を胎児の臍帯血の幹細胞でコーティングした0.02mmの微細な針が3,000本も含まれた「治療系ファンデーション」です。針を通して美容成分が皮膚に吸収される仕組みで、美白、しわ、たるみに加えてリフトアップが叶い、年齢を重ねた熟女たちには堪らない魔法のような一品。48~72時間で針は自然と抜け落ちるため体内に侵入する心配もないとのこと。



- 色素沈着抑制
- アンチエイジング
- バリア機能強化
- 皮膚再生



臍帯血と言えば、競泳の池江璃花子選手も罹患した白血病の治療に用いられるなど貴重なもの。日本国内の白血病患者数は1万3,000人とされており、発症者の7割を60歳以上の方が占めています(2019年厚生労働省調べ)。臍帯血を保存する公的バンクでは白血病などの治療のために保存されていますが、民間バンクでは、本人や家族だけを対象とした将来の再生医療のために個人で保存費用を支払い、保存してもらうそうです。

胎児の臍帯血まで利用して「一瞬の美」を手に入れるよりは、高齢になるほど発症率が高まる白血病などに備え、人生100年時代に向けた将来の再生医療のために「命の貯金」として大切に保存する方が、ずっと有意義で後悔しないのではないのでしょうか。

## 健康法師の独り言 パート106

### フェイクミート

アメリカでは昔から『ベジタリアン』(菜食主義者)という人や、乳製品すら口にしないもつと徹底した『ビーガン』という原理主義的な人たちが多数存在します。こういった人たちでも、やはり肉を食したくなる欲求はあるそうで、ここに豆類を主成分にした『フェイクミート』でたんぱく質を摂取するということが大ブレイクしています。2019年にナスダックに上場した『ビヨンド・ミート社』や『インポッシブル・フーズ社』という2代巨頭が存在し、あのビルゲイツ氏は両社に賛同して巨額の投資をしています。牛肉に含まれるオメガ6系脂肪酸が健康に良くなって、バカ程肉食するアメリカ人には通常人でも健康に注意するようになってきたらしい。

更にフェイクミートは地球環境問題にもよいとされるわけで、デブを気嫌いいする知的階級層にも大いに支持されるという話。広大な牧草地を必要とし、牛肉1kgを取るには穀物 11kgが必要とされ、水も1頭に年間4万リットルも必要とされる。さらに牛のゲツブやオナラにはCO2の28倍もの温室効果があるメタンガスが大量に出されて、地球上の排出される温室効果ガスの15%がこれら畜産業から出たものだとされている。世界の人口は2030年には85億人まで増えるとされており、この食糧事情を考えれば、これ以上畜産を拡大させるわけにはいかないわけです。これへの回答の一つが豆で作るフェイクミート、着々と本物の牛肉に近い味と食感が研究されているということなのです。

日本でも2020年3月から日本ハムが『ナチュミートシリーズ』、伊藤ハムからは『大豆ミートシリーズ』のハムやミートボールなどの惣菜品が発売されている。味にうるさい日本の消費者がどれほど大豆ミートに反応するか、これからが大いに見ものというわけですね。牛丼や焼肉も出てきているようで、健康志向のご老体にはよさげな気がしております。もう、霜降り和牛はしんどいですわ。フェイクミートで罪悪感から解放されること請け合いです！



ネクストミート社がユグレナ社と共同開発した「NEXT ユグレナ焼肉 EX」。ユグレナ配合の大豆ミートです！

## 編集後記

皆様、今回の通信はいかがでしたでしょうか。緊急事態宣言は解除されましたが、大阪は「まん延防止等重点措置」が適応されるなど、まだまだ安心できる環境ではないですね。季節の変わり目となりますので、皆様体調管理にはお気を付けください。松村

